

教育委員会



上川口小学校

明るく元気で

歌声の溢れる学校に

校長 柳川 雅史

はじめに

本年度は、複式学級が1学級できる予定でしたが、4月2日に転校生が1名来たため複式が解消となりました。それに伴い講師1名が配属となり、全学年単式という喜ばしいスタートを切る事ができました。

本校の児童は、元気な挨拶ができ、素直で真面目であり、友達に対しての優しさも持っている素晴らしい子どもたちです。ただ、物事や状況を自ら判断し、自分から進んで何かをするといった点で弱さがあります。また、大舞台での精神的な弱い面も感じられます。人前で自分の思いや意見を堂々と発表する、物怖じせず活動できる児童を育てたいという思いを強く抱きました。そこで、校内研究の主題を

「自分の考えや思いを生き生きと表現できる児童の育成を目指して」として、発表力（表現力）を身につけさせるための取り組みを開始しました。

発表力を高める取り組み

○毎月の歌を決め、朝の会に全学級で歌うことから始め、音楽の時間や音楽朝会で合唱曲に仕上げている。校内音楽祭などで保護者や地域の方に発表する機会を多く持つ。

○発表朝会を実施して、各学級のいろいろな取り組みなどの発表を行い、保護者の方にも参観を呼びかけていく。

○日々の授業においても、子ども達の発表する場をできるだけ設定し、答えだけの発



表にとどまらず、自分の考えを全員に説明できることに重点をおいた発表を仕組んでいく。

学力育成のための取り組み

昨年まで取り組んできた、基本的な学力育成のための3つの柱は継続していきます。

①チャレンジタイム

清掃活動と5校時の間の10分間「数と計算」の領域を中心に、水曜日を除く毎日、児童一人ひとりの進度に応じてプリント学習を続けている。

②くじらっ子タイム

高学年は月曜日、低学年は火曜日を学力向上の時間と設定し、文章問題を中心に習熟を図っている。

③学習の手引き

児童が自力解決できる手助けとなるよう、国語科と算数科において「一人学習の手引き」を作成し、毎年改良しながら活用をしている。

そして、4月に実施された標準学力調査の結果を見ると、ほとんど期待正答率を大きく上回っている状況である。

ただ、算数科に比べると国語科の方の結果があまり芳しくないことが分かる。国語科において、全体的に「読む能力」や「言語についての知識・理解・技能」といった点に課題も見えてきた。

そこで、継続している3つの柱に加えて、国語科の力を育成するために、毎日の読書の奨励・漢字朝会を実施していくことにした。また、各学年とも朝の会や国語の授業の始めに、漢字小テストを継続的に行っていくことを確認した。

平成20年度 標準学力調査結果(4月22日実施)

		5年	4年	3年	2年
国語	期待正答率	71,0	73,2	77,3	81,2
	本校正答率	79,5	75,8	75,0	90,9
算数	期待正答率	74,6	74,9	78,0	84,7
	本校正答率	81,4	83,2	84,0	97,2

特色ある教育の推進にかかる事業への取り組み

- ①全校児童による通学路清掃など、社会奉仕に関わる体験活動
- ②上川口の老人クラブの方々の愛校作業、蟻川の老人クラブの方々との交流など、地域の皆さんとの交流活動
- ③地域の皆さんと共に、作物作りをする勤労生産活動
- ④老人ホームや障害者施設を訪問しての交流活動
- ⑤上川口の山や川、そして海と親しむ自然体験活動

このようないろいろな取り組みを行うことで、地域の自然や人のすばらしさを実感させ、人や自然に対する優しさや豊かな感性、そして地域を愛する心を育てていきたい。また、地域の方々と共に体験活動をする中で、豊かな社会性や人間性を育てていきたい。

そして、学校から積極的に情報発信を行い、学校への関心を一層高めてもらうことで、地域の中の学校として頑張っていきたいです。

大方中学校

学級を核とした仲間づくり

校長 渡会 好史

はじめに

大方中学校では、昨年度に引き続き「学級を核とした仲間づくり」を最重要目標に、授業中の教え合い活動、学級での日々の班活動、代議員・生徒会執行部を中心とした学年全体や全校を見渡した生徒会活動、元気を中心とした生徒同士によるお世話活動などに取り組んでいます。

本年度は、県の「学力向上のための学校支援事業」と、国の「いじめ根絶運動支援事業」の指定を受け、本校の最重要目標である仲間づくりの取り組みにさまざまな角度からアプローチをしています。

運動会に続いて文化祭でも、「高めあう集団」「関わり合える集団」「助け合える集団」が多くの場面で育っていったのではないかと思います。

このようにして「豊かな人間関係を築いていくため」に必要なコミュニケーション能力を身につけることで確かな学力を保障していきたいと考えています。

大方中学校文化祭

10月17日、「勇氣・輝き・想いよとどけ」青春満開、一唱入魂、今この時を」をテーマに掲げ、大方中学校の文化祭が開催されました。

実行委員によるオーブニングセレモニーではテーマを描いたレリーフの見事さにも驚かされました。ステージでは、わたしの主張、英語暗唱、学年の取組み発表、子ども会の発表、音楽部によるミニコンサート、劇の発表、クラスによる器楽合奏と続きましたが、それぞれに趣向を凝らした取り組みを披露してくれました。

特に、クラス発表の劇では笑いあり、友情の美しさありと、よく考えられたシナリオでした。また、学級での合奏にチャレンジしたクラスや吹奏楽と有志によるヴォーカルのコラボレーションなど、今までにない新たな挑戦もあり変化に富んだステージとなりました。

全クラスが熱を入れて練習に取り組んできた学級合唱では、1年から3年までの各クラスが立派な態度でステージに立ち、素晴らしい歌声を聴

かせてくれました。1年生にとっては初めてのステージでしたが、無心に歌う一人ひとりの表情には心打つものがありました。その後、午後の部では学年合唱が体育館に響きわたりました。

最優秀クラスは2年1組が、また、最優秀学年には第3学年がそれぞれ選ばれ、3年生は11月14日に行われた黒潮町音楽祭に出場しました。

3年生にとつての中学校生活最後の大きな行事を成功させようと、1・2年生ともども展示発表やステージ発表に取り組んできましたが、日頃は見ることのできない、友達や先輩の素晴らしい一面を知ることができ、参加した者全



員にとつて大変有意義な一日となりました。運動会に続いて文化祭も成功させることができたことは、本校生徒の今後の自信にも繋がっていくことと思います。

平成20年度全国学力調査の分析結果(まとめ)

平成20年度調査においては、平成19年度調査と調査問題が異なることから年度の平均正答率による単純な比較ができないため、標準化得点により、本校生徒の状況について平成19年度調査との相対的な比較を行いました。

分析結果は、国語Aが昨年度よりも低い数値(1)であった以外は、国語B(応用)が+1、数学Aが+5、数学Bが+3と昨年度を大きく上回っています。

※いずれも平成20年度調査および平成19年度調査の全国(国・公・私)の平均正答数(問)がそれぞれ100となるように標準化した場合の得点。

国語A(基礎)に関しては昨年度より標準化得点が低くなっています。特に「関

心・意欲・態度」、「読むこと」「読む能力」がそれぞれ県の平均値よりも低い結果が出ています。

しかし、国語B(応用)では全ての領域で県平均値よりも高くなっています。国語Aで県平均値よりも低かった「関心・意欲・態度」についても国語B(応用)では県平均値よりも高く、国語Bでは、昨年度よりも標準化得点が1ポイント上がっています。

一方、数学Aに關しても昨年度より標準化得点が高くなっています。領域別に見ても、全ての領域で県平均値を大きく上回り、7領域中5つが全国平均値よりも高くなっています。昨年度は、本校の平均値が全ての領域で県・全国の平均値より下回っていました。今年度は大きな伸びが見られました。これらは昨年度から取り組んできた、仲間づくり授業と補充指導の成果と考えています。

学年・教科によって課題と成果は異なりますが、ベネッセによる学力調査の分析結果をもとにして、今後、学習指導計画の見直しなどを進めていきたいと考えています。